

第1回 スポーツを通じた地域振興推進委員会会議次第

日時 平成30年10月5日（金）

午後1時30分から

場所 鴨川市役所4階大会議室

1 開 会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 委員紹介

5 役員選出

6 議 件

（1）事業の概要について

（2）今後のスケジュール及び展開について

（3）その他

7 意見交換

8 閉 会

鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会設置要綱を次のように定める。

平成 30 年 7 月 6 日

鴨川市長 亀田 郁夫

鴨川市告示第 115 号

鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会設置要綱

(設置)

第 1 条 総合運動施設を有する本市の特性を生かし、スポーツを通じて産業の活性化、交流の促進その他の地域振興を推進するため、鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) スポーツを通じた地域振興を推進するため必要な施策の企画立案に関すること。
- (2) スポーツを通じた地域振興を推進するため必要な施策の実施に関すること。
- (3) その他市長が必要と認める事項

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 19 人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 識見を有する者
- (2) スポーツ関係団体の代表者又はその推薦する者
- (3) 観光業若しくは商工業の関係団体の代表者又はその推薦する者
- (4) 医療機関の代表者又はその推薦する者
- (5) 金融機関の代表者又はその推薦する者
- (6) その他市長が必要と認める者

3 委員会に委員長 1 人及び副委員長 2 人を置き、委員の互選によりこれを定める。

4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ定めた順序によりその職務を代理する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、委嘱の日から平成 33 年 3 月 31 日までとする。

(会議)

第 5 条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

4 委員長は、必要に応じて関係者の会議への出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(専門部会)

第 6 条 第 2 条各号に掲げる所掌事務について専門的に協議させるため、委員会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、委員又は委員が所属する団体に所属する者のうちから市長が委嘱する者をもって組織する。

3 専門部会は、協議の結果を会議に報告するものとする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、建設経済部スポーツ振興課において処理する。

(その他)

第8条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公示の日から施行する。

(失効)

2 この告示は、平成33年3月31日限り、その効力を失う。

(経過措置)

3 委員の互選により委員長が定められていない場合の会議については、第5条第1項の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

スポーツを通じた地域の稼ぐ力推進事業の概要

資料 1

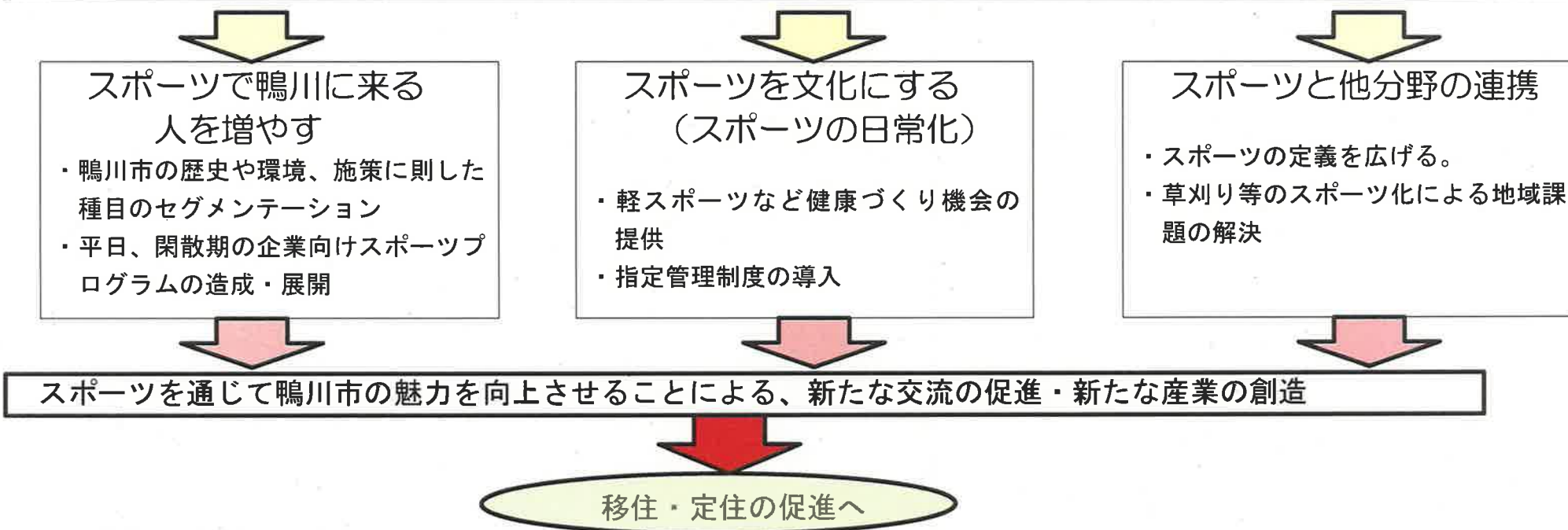
鴨川市における現状・課題

本市は多くの宿泊施設や医療施設、スポーツに適した自然環境、県内有数の市所有の総合運動施設を有し、千葉ロッテマリーンズキャンプをはじめ、オルカ鴨川FCの活動やアウトドア、マリンスポーツ、サイクリングなども行われるなど、スポーツは主要な地域振興資源となっている。

⇒スポーツを中心に捉えた他産業との連携や、より幅広い人々が関わっていくスポーツの日常化については、手付かずのままであり、戦略性に欠け、機会損失も大きい。

地方創生における取組み

スポーツを中心に捉えた観光、商業等地域産業の振興策の策定やスポーツイベントや合宿誘致のほか、スポーツの日常化、文化活動との連携、総合運動施設の管理を総合的に行う組織（スポーツ・カルチャー・コミッション）づくり。



○事業期間：平成30年度～32年度

事業費：58,500千円（平成30年度は33,000千円）

スポーツ・カルチャーコミッション構想

2018 年 10 月 5 日

鴨川市建設経済部スポーツ振興課

地域スポーツプロデューサー 岡野 大和

1. 現状認識

- 南房総地域随一の市所有の総合運動施設 → ×市が運営し、柔軟に活かしてきれていない
 - キャンプ地として恵まれた環境・地理的条件 → ×積極的な誘致を行っているとは言えない
 - なでしこリーグに参戦するオルカ鴨川 F C → ×公式戦開催要件を満たしていない施設
 - サーフィンなどのマリンスポーツの整った土壌 → ×恵まれた土壌を活かせていない
 - 2020 東京五輪の開催 → ×五輪に対する施策が消極的
 - 多目的体育館の建設凍結 → ×文化・音楽活動を行う拠点が乏しい
 - 廃校などの遊休施設 → ×放置されている施設も多く活用していない
- ⇒ 資源は豊富だが、戦略的に活かされていない = **機会損失**

2. 国の方向性

スポーツという単機能ではなく、**スポーツ×文化×観光**をかけ合わせた施策を展開しようとしている。

3. 設立趣旨

「スポーツの力・文化の力でまちづくり」

① 心身の活性化

スポーツや文化を通じた感動はそこに住まう人々の心身を活性化させる。まちづくりの原動力は人であり、人々が活性化することで、地域振興や経済活動にもフィードバックされる

② 健康増進

スポーツや文化を自らが実践することで健康増進につながり、我が国の課題である健康寿命の向上を図れる。

③ ブランディング

スポーツや文化という無形のものは直接的な経済効果を生み出しづらいものであるが、逆に付加価値を高め、地域のイメージを向上させる。結果的に地域のブランディングに結びついていく。

④ ALL 鴨川

スポーツや文化は政治的に中庸であり、思想・信条に関係なく幅広い人たちが参加できる。地域一丸となった広がりのある活動展開が期待できる。

4. シェアビジョン = 市全体で共有すべき方向性

ウェルネスリゾート : 鴨川市の観光分野で掲げているビジョンだが、これは市全体で共有しても良い。

= 心身の健康 = わかりやすく「**元気鴨川**」

5. シェアミッション = 市全体で共有すべき使命

「**良質な日常**」の提供 ⇒ ライフ（人生、生活）に+αを提案し、提供する

※「日常」というフレーズは非日常を求める観光客にはミスリードを生むおそれもある。

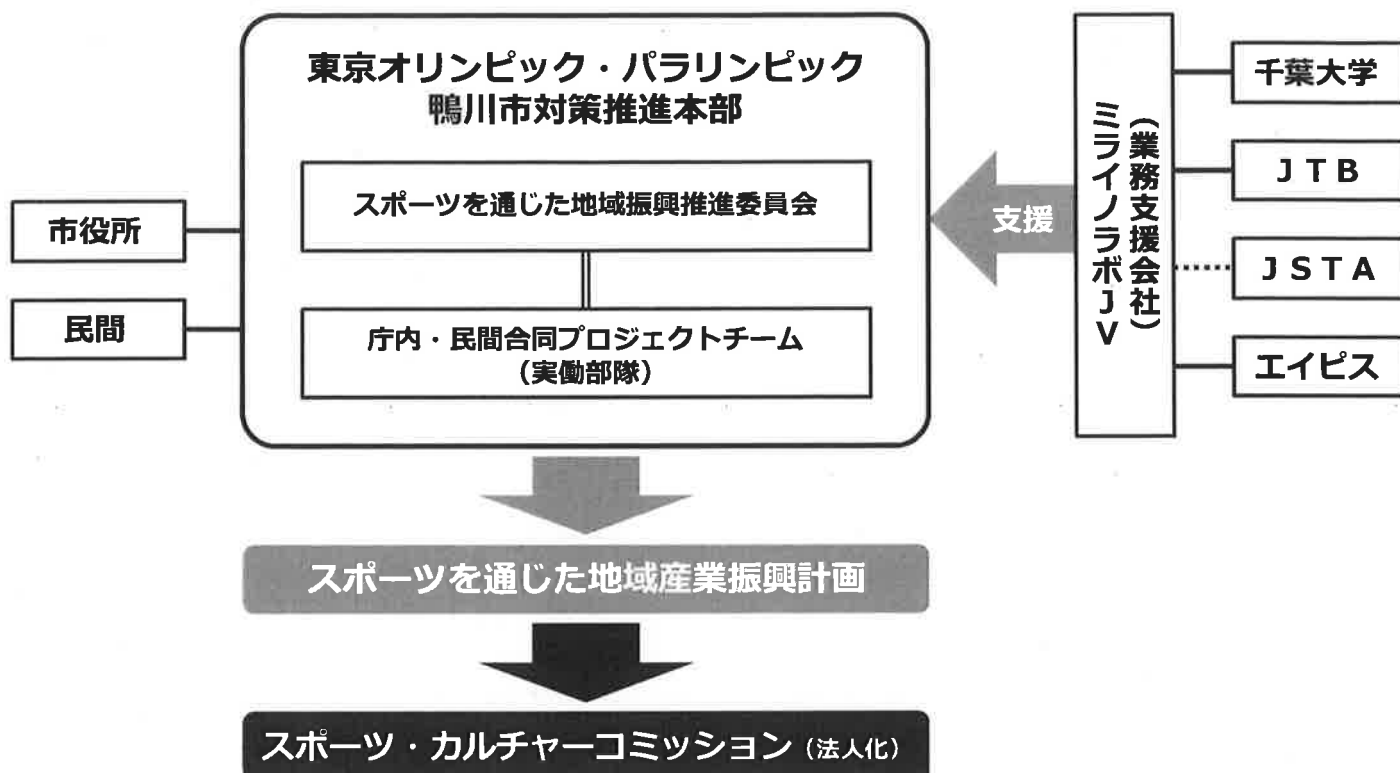
6. 本プロジェクトで達成したいこと（スポーツ・カルチャービジョン）

- ① スポーツ・カルチャーを柱とする**地域ビジネスモデル**を確立する = 持続可能な仕組みづくり
- ② スポーツを**文化**にする = 日常化
- ③ スポーツが**まちづくりの HUB**となる = 他分野との連携

↓

鴨川市のイメージアップ・ブランディング ⇒ **移住・定住促進**

7. 本プロジェクトの推進体制（平成30年度）



8. スポーツのセグメンテーション

スポーツ関連事業を推進するにあたっては、地域のもつ歴史や環境、さらに前衛性などを考慮した上で、地域色を明確にするため、種目などのセグメンテーションを行なう必要がある。

- ① 歴史 野球（少年野球／千葉ロッテマリーンズ）
 バスケットボール（ミニバス／千葉ジェッツ・車椅子バスケット）
 武道（剣道など伝統的に強豪の部活動／国際武道大学／BUDOツーリズム）
- ② 環境 アウトドアスポーツ（マリン（サーフィンなど）、ビーチ、釣り、サイクル、トレイルラン 等）
- ③ 前衛性 女子（オルカ鴨川FC、ロードレースチーム、女子ソフトボール 等）
 パラ（車椅子バスケット、車椅子陸上、ブラインドサッカー 等）＝シニアへの対応

9. 3+2の事業部門

【主要事業】

① キャンプ・イベント誘致・運営事業

対象：プロ・アマチュアスポーツチーム、スポーツ団体、学校

一般的に多くのスポーツコミッションの柱となる事業である。スポーツ合宿や大会などを誘致し、運営を行なう。本市の場合、その分野を文化にも広げ、文化的な合宿や大会誘致、運営なども展開していく。②指定管理事業と連携し、市所有の施設を有効活用し、一定の収益を確保していく。また、運営に当たっては地域の宿泊施設、商工業者などと連携し、結果として地域の経済活性化を図る。

② ジョイントベンチャー型指定管理事業

対象：プロ・アマチュアスポーツチーム、スポーツ団体、学校、企業、市民（一般利用者）

市所有の総合運動施設をはじめ、廃校などの遊休施設の管理・運営を指定管理型で受託し、より戦略的な活用を図る。事業体に企業なども参画させ、地域に根ざした運営とともに、企業の専門的知見やノウハウを活かしたジョイントベンチャー型の事業推進を展開する。当面、コミッションの収益源ともなる事業である。

③ スポーツカルチャー創造事業（Sports+開発）

対象：企業、スポーツツーリスト、市民

本プロジェクトのスポーツ・カルチャービジョンでも掲げている「スポーツを文化にする」「スポーツがまちづ

くりのHUBとなる」未来像を目指して、スポーツの定義を広げ、一般市民レベルにおいて、スポーツを日常化すること。逆に日常をスポーツ化することを模索していく。

また、スポーツのセグメンテーションで取り上げた、前衛性のあるスポーツ分野について積極的に取り組み、絶対数は少ないが濃く深いユーズをもつスポーツ種目の醸成を図る。鴨川市（房総）をそういったマイナースポーツのメッカに育てていくことで、極めてヒット率の高いスポーツツーリズム誘致を実現する。

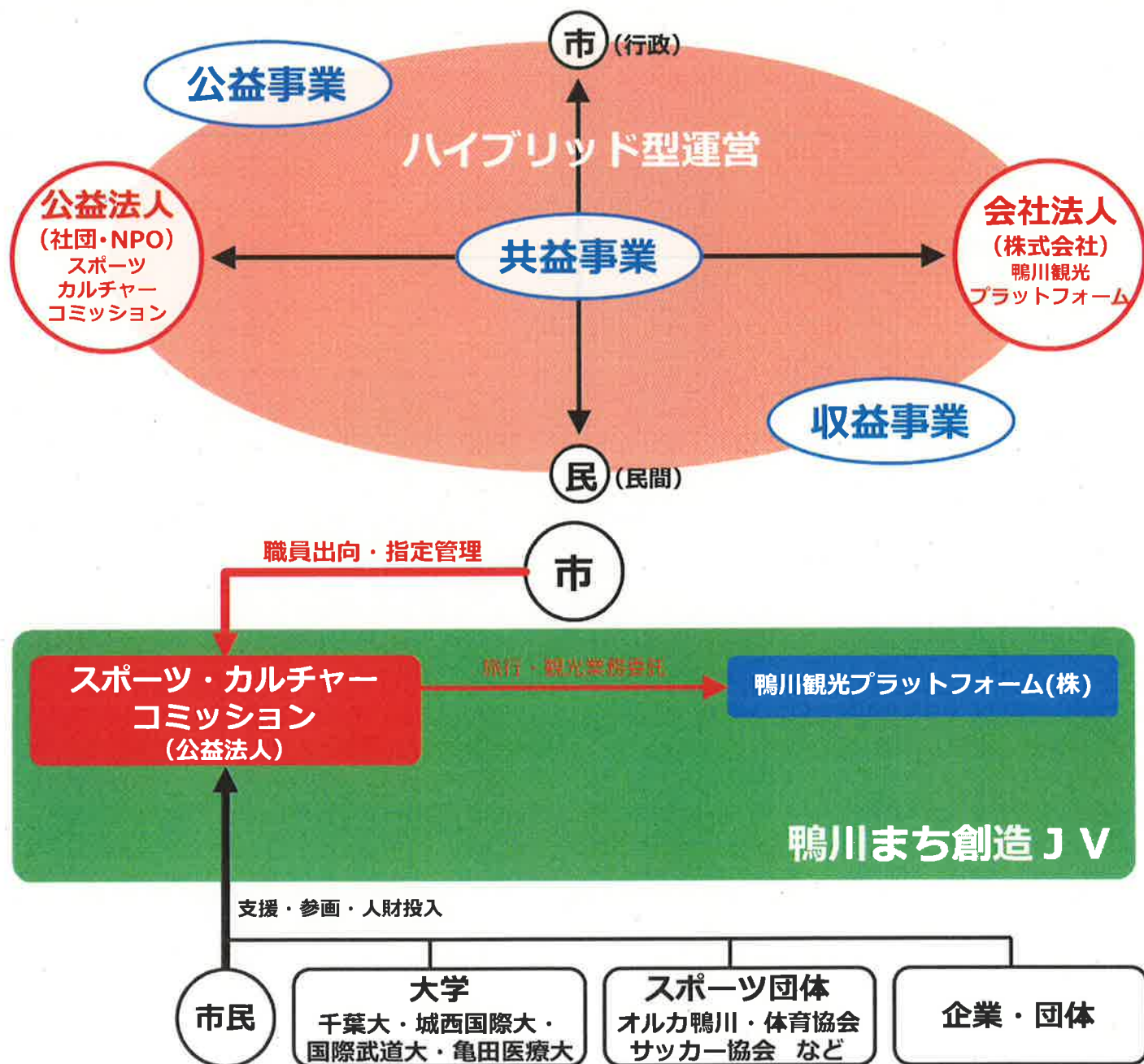
文化分野についても同様の視点で取り組んでいく。カルチャーツーリズムの一環として、現在、商工観光課が所管しているフィルムコミッション、ロケツーリズムについても本コミッションの一事業として検討する。

このような先進的な取り組みを通じて、シェアビジョンでも掲げている心身の健康、健康寿命の向上に貢献するウェルネスリゾートとしての地域づくりを実現していくほか、例えば、草刈りなどの現在人手不足ともなっている一次産業などに関わる作業にスポーツ的な要素を取り込み、スポーツ（sport）のもつ「楽しさ」を活かして地域の問題をスポーツで解決する仕組みを創造する。

【付帯事業】

- ④ 地域メディア事業
- ⑤ 事務局代行事業

10. 鴨川式ハイブリッド型運営体制



すでに存在している、観光まちづくり事業を一元化して展開する鴨川観光プラットフォーム株式会社（地域DMO法人）と連携した、ハイブリッドモデルをもって運営していく。

収益性の高い事業はプラットフォーム、公益性の高い事業はコミッション、それぞれの業務を委託、分業するという関係性を構築し、両社がまちづくりを推進するジョイントベンチャーのグループとして経済的にも人的にも持続性のある仕組みを実現する。

11. スケジュール

平成30年度 スポーツカルチャーコミッションの創設に向けた準備作業

- ① 現状調査・分析
- ② ビジョン・ミッションの設定
- ③ 具体的な事業の計画
- ④ モニタリング（イベント、ツアー、キャンプ、スポーツ商品のモニター販売・実施 など）
- ⑤ 先進地視察（オガール紫波を予定）：平成30年11～平成31年1月頃
- ⑥ シンポジウムの実施（地域理解の醸成）：平成30年12月頃
- ⑦ ①～⑥の取り組みを踏まえた事業計画の策定 → 組織の設立（法人化）

平成31年度 スポーツカルチャーコミッション創設・事業開始

- ① 組織設立・事業開始：平成31年3～4月
- ② キャンプ・イベント誘致事業の展開（2020年東京五輪を目標）
- ③ 指定管理に向けた準備
- ④ スポーツカルチャー創造事業のモニタリング

平成32年度 スポーツカルチャーコミッションの本格事業開始

- ① キャンプ・イベント運営（2020年東京五輪）
- ② 指定管理受託・業務開始 = 一定の収益確保
- ③ スポーツカルチャー創造事業の実施
- ④ 自走に向け、自己収益性の向上

12. 事業展開のポイント

① “メガ”ではなく“コツコツ”

これまで本市では、観光地にありがちな数千人から万人単位の参加者を誘客する“メガイベント”の誘致に躍起にやっていた。しかしながら、“メガイベント”は土日開催されることが多く、観光・サービス事業者の繁忙時であり、地域のキャパを超える集客が一度に押し寄せることはサービスの低下を招きかねない。また、“メガイベント”には公的助成も必要となり、人的な負担も大きい。このように、持ち出しも多く、地域も疲弊してしまう“メガ”型の事業は、価値観が多様化する現在においてもはや時代錯誤とも言える。

本プロジェクトでは、“コツコツ”と持続可能な仕組み、事業を創造、展開していきたい。

② 平日・閑散期のツーリズム商品開発

スポーツ施設も、観光・サービス業も空いているのは平日や閑散期である。したがって、この時期を狙ったツーリズム商品の開発が急務である。前述の“メガ”から“コツコツ”へというポイントを踏まえて、平日・閑散期にいかにか“程良い”集客を実現する仕組みを構築できるか、これが本市（地域）のテーマであると言える。

地域の持ち出し、人的負担も少なく、しかし、一定の来訪者・参加者が集い、地域も質の良いサービスが提供できる、リピーターの獲得も期待できる、そのような（スポーツ・カルチャー）ツーリズム商品を開発したい。



スポーツを通じた地域振興プロジェクト

Kamogawa Sports +

～ 鴨川からスポーツのその先を ～

平成30年10月5日
コーディネーター
岡野 大和



1. 現状認識

- 地域随一の市所有総合運動施設
 - 恵まれた環境・地理的条件
 - なでしこL所属オルカ鴨川F C
 - マリン・ビーチスポーツの整った土壌
 - 2020東京五輪の開催
 - 廃校などの遊休施設
- ▶ 市直営 柔軟に活かしていない
 - ▶ 積極的な誘致を行っていない
 - ▶ 公式戦要件を満たしていない施設
 - ▶ 恵まれた土壌を活かせていない
 - ▶ 五輪に対する施策が消極的
 - ▶ 放置されている施設も多い



資源は豊富だが、戦略的に活かされていない



機会損失

2. 国の方向性

スポーツという単機能ではなく

スポーツ×文化×観光

を掛け合わせた施策を展開しようとしている。

スポーツ庁
文化庁
観光庁



3庁を統合して1省にする構想も...

3. 地域スポーツコミッションの推進

地域スポーツコミッションとは（スポーツ庁より）

スポーツと、景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することで、まちづくりや地域活性化につなげる取組が全国で進められています。例えば、スポーツへの参加や観戦を目的とした旅行や、スポーツと観光を組み合わせた取組である「**スポーツツーリズム**」、域外から参加者を呼び込む「**地域スポーツ大会・イベントの開催**」、国内外の大規模な「**スポーツ大会の誘致**」、プロチームや大学などの「**スポーツ合宿・キャンプの誘致**」などが、代表的な取組です。各地でこれらの取組を推進しているのが、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業などの民間企業が一体となって組織された「**地域スポーツコミッション**」です。スポーツを通じた地域振興の、まさに中心的存在として活動しています。

▶地域スポーツコミッションの活動支援（スポーツ庁）

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/list/detail/1372561.htm

▶千葉県内のスポーツコミッション

木更津市 きさらづスポーツコミッション

銚子市 特定非営利活動法人 銚子スポーツコミュニティー

成田市 成田スポーツツーリズム推進会

4. 鴨川式スポーツ・カルチャーコミッション

スポーツ・カルチャーコミッション

鴨川市では国の方向性も踏まえ、さらに先駆的に発展した取り組みを展開していきたい。
スポーツと文化を統合した、**スポーツ・カルチャーコミッション**の創設を目指したい。

スポーツと文化を統合した取り組みのメリット

① “**スポーツを文化に**” を体現できる。

“スポーツを文化に”という有名なフレーズを体現した取り組みということを訴求できる。

② **スポーツも文化も無形に価値を追求するものである。**

学校の部活動でも文化部・運動部があるように、両者は密接な関係をもっている。

スポーツも文化も無形に人々が価値を追求するという共通点がある。

③ **施設の共存を図り、効率的な運営が実現される。**

実際にスポーツ施設と文化施設が併設・共有されるケースも多く、施設管理・活用という点においても両者を一元的にとりまとめる仕組みづくりは効率的な運営を実現し、幅広い利用者や来館者を集めることにもつながる。

5. 設立趣旨

スポーツの力・文化の力でまちづくり

心身の活性化

スポーツや文化を通じた感動はそこに住まう人々の心身を活性化させる。まちづくりの原動力は人であり、人々が活性化することで、地域振興や経済活動にもフィードバックされる。

健康増進

スポーツや文化を自らが実践することで健康増進につながり、我が国の課題である健康寿命の向上を図れる。

ブランディング

スポーツや文化という無形のものは直接的な経済効果を生み出しづらいものであるが、逆に付加価値を高め、地域のイメージを向上させる。地域のブランディングを図れる。

A L L 鴨川

スポーツや文化は政治的に中庸であり、思想・信条に関係なく幅広い人たちが参加できる。地域一丸となった広がりのある活動展開が期待できる。

6. シェアビジョン&ミッション

①シェア・ビジョン（鴨川市全体で共有すべき方向性）

ウェルネスリゾート = 心身の健康 = 元気鴨川

鴨川観光プラットフォーム（鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり検討委員会）で提唱している鴨川市が目指すべき未来像である「ウェルネスリゾート」を全市的に共有し、本プロジェクトでも究極的なゴールとして設定する。ただし、「ウェルネス」ということばは一般的にはわかりづらいので、例えば「元気」というわかりやすく、幅広い世代が「自分ごと」と思えるようなフレーズを使用すべきである。

②シェア・ミッション（ビジョンを実現するために大局的な行動目標）

“良質な日常”の提供 = Life+（人生に+aを提供する）

「ウェルネスリゾート」を実現するために掲げられているミッションが“良質な日常”の提供である。本プロジェクトでも“良質な日常”の提供を共有すべきミッションとするが、観光客にとってその動機は“非日常”を味わうことでもあり、“日常”という単語はミスリードを招くおそれもある。

そこで、“良質な日常”を表現する端的なフレーズとして「Life+」ということばを提唱する。

Lifeとは日々の生活であり、日常である。そこになにかを+aしたものが“良質の日常”であり、我々は既存の全ての物事に鴨川ならではの「プラス」を追求し、提供していくことをミッションとする。

7. スポーツ・カルチャービジョン

本プロジェクトで達成したいこと

- ① スポーツ・カルチャーによる**地域ビジネスモデル**の確立
 - ▶ **スポーツ産業の確立 = スポーツの地位向上**
 - ▶ **持続可能な仕組みづくり**
- ② スポーツを**文化**にする ▶ **日常化**
- ③ スポーツが**まちづくりのHUB**となる ▶ **他分野との連携**

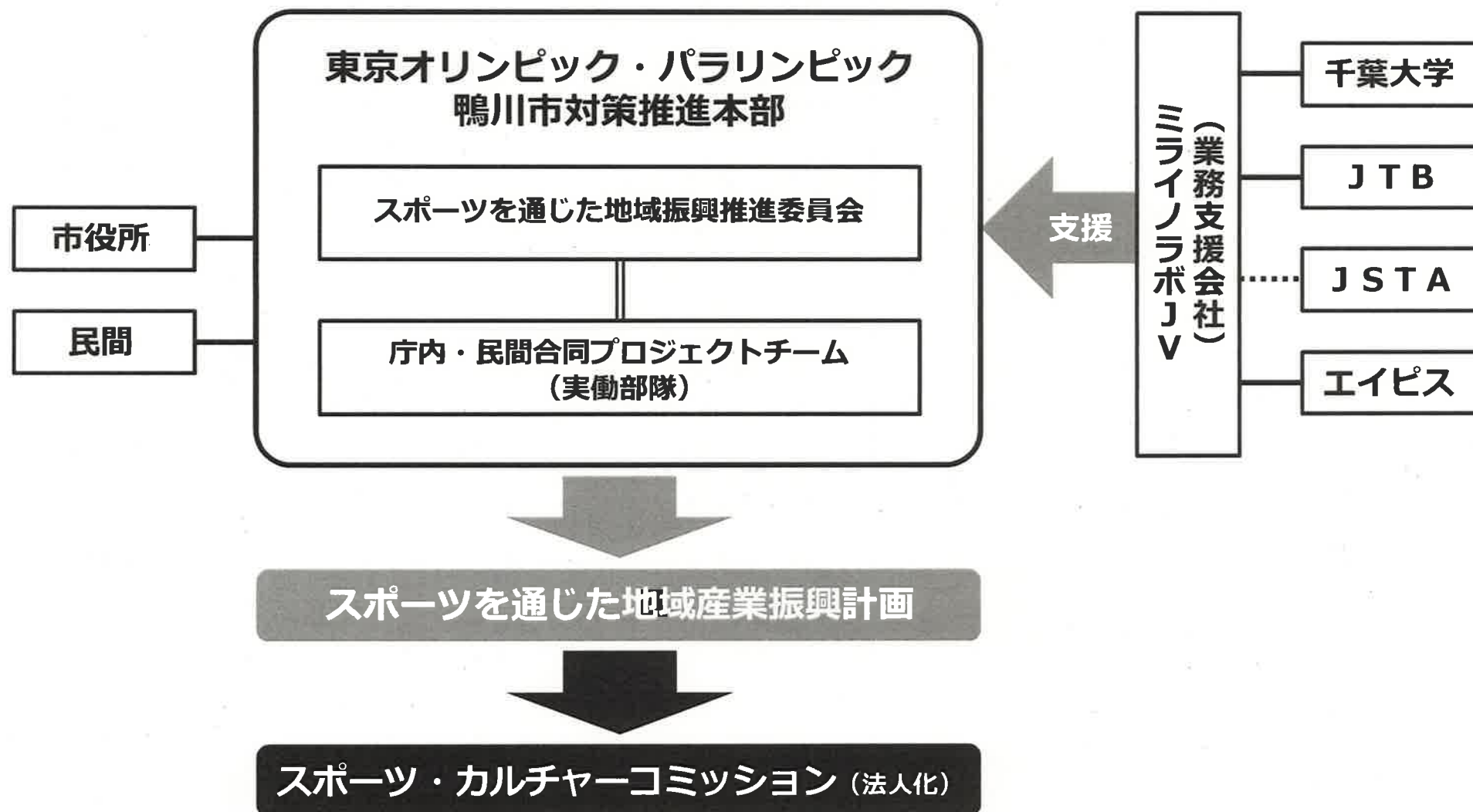


鴨川市のイメージアップ・ブランディング



移住・定住促進

8. 推進体制（平成30年度）



9. スポーツのセグメンテーション

重点種目のセグメンテーション

① 歴史

- 野球 ▶ 少年野球／千葉ロッテマリーンズ
- バスケット ▶ ミニバス／千葉ジェッツ・車椅子バスケット
- 武道 ▶ 剣道等伝統的に強豪の部活動／国際武道大学／BUDOツーリズム

② 環境

アウトドアスポーツ

- ▶ マリン（サーフィン等）、ビーチ、釣り、サイクル、トレイルラン など

③ 前衛性

- 女子 ▶ オルカ鴨川 F C、ロードレースチーム、女子ソフトボール など
- パラ ▶ 車椅子バスケット、車椅子陸上、ブラインドサッカー など
- = シニアへの対応

10-1. 3 大事業部門 + 2 部門

① キャンプ・イベント誘致・運営事業

対象：プロ・アマチュアスポーツチーム、スポーツ団体、学校

- スポーツコミッションの柱となる事業
- スポーツ・文化合宿や大会などの誘致・運営
- 指定管理事業と連携した市所有の施設の有効活用・一定の収益の確保
- 地域の宿泊施設、商工業者などとの連携 ▶ 地域の経済活性化

② ジョイントベンチャー型指定管理事業

対象：プロ・アマスポーツチーム、スポーツ団体、学校、企業、市民（一般利用）

- 市所有の総合運動施設、廃校などの遊休施設の管理・運営の指定管理受託
- ジョイントベンチャー型の事業推進
 - ▶ 事業体へのスポーツ関連企業の参画 = 専門的知見やノウハウの活用
- 当面、コミッションの主要な収益源

10-2. 3 大事業部門 + 2 部門

③ スポーツカルチャー創造事業 (Sports+開発)

対象：企業、スポーツツーリスト、市民

○「スポーツを文化に」「スポーツをまちづくりのHUBに」未来像を目指す。

○スポーツの定義の拡大 ▶一般市民レベルにおける、**スポーツの日常化**

○前衛性のあるスポーツ分野への積極的な取り組み ▶**強烈的なメッカづくり**

○フィルムコミッション、ロケツーリズムの検討

▶**心身の健康、健康寿命の向上を実現するウェルネスリゾート**

▶**スポーツ (sport) のもつ「楽しさ」を活かした地域課題の解決**

例：草刈りなど一次産業へのスポーツ要素（競技性・娯楽性）のアドオン

+

④ 地域メディア事業

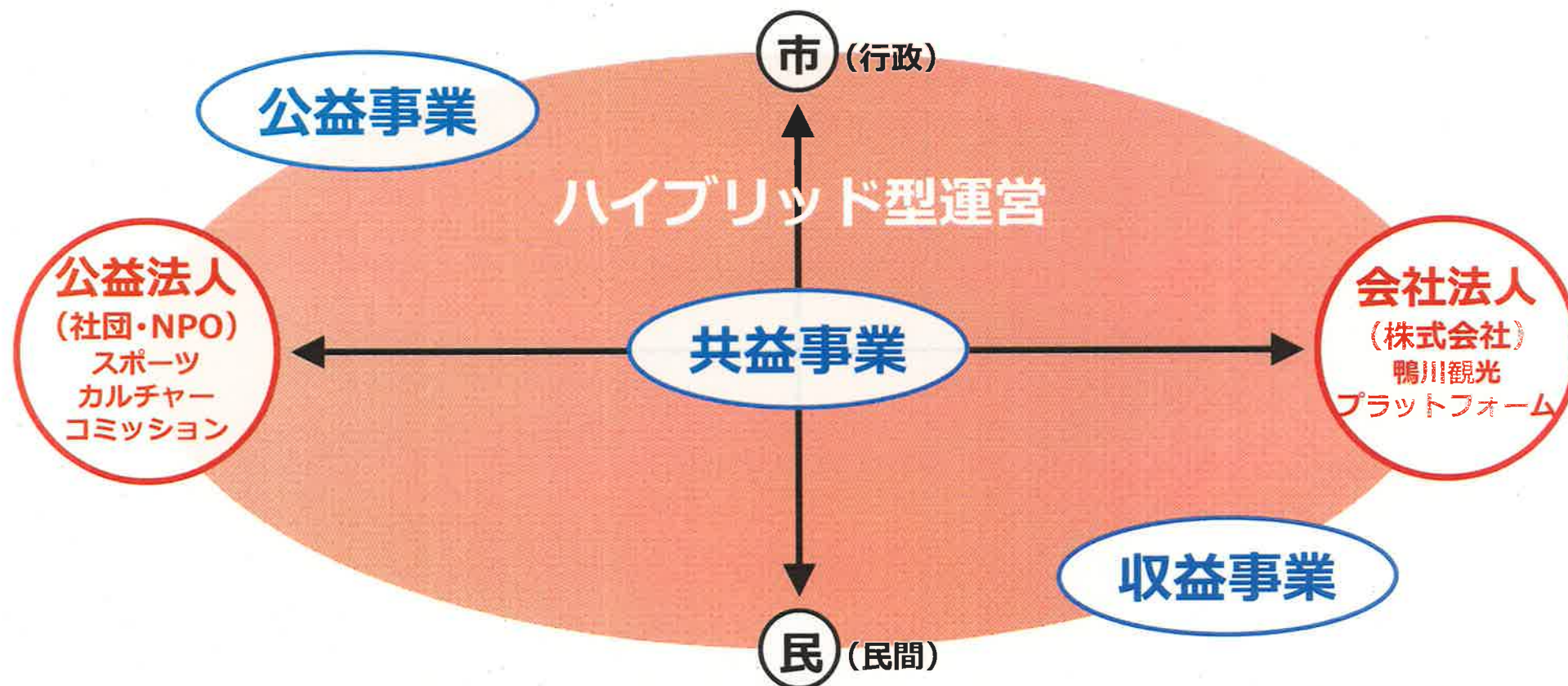
⑤ 事務局代行事業

11-1. 鴨川式ハイブリッド型運営体制

ハイブリッド型運営体制

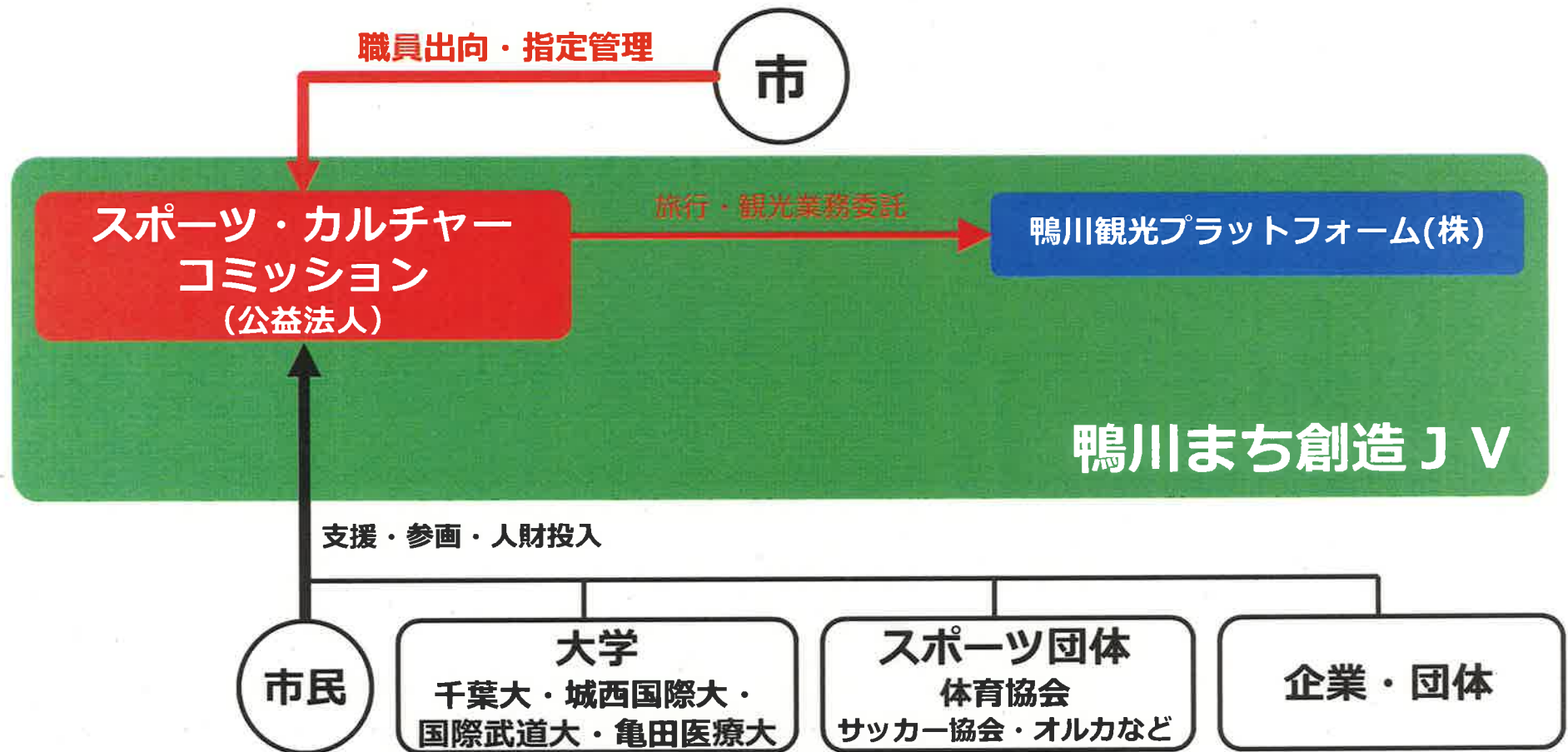
2つ（複数）の法人による、それぞれの特徴を活かして
収益事業・公益事業をバランス良く運営する組織モデル

⇒ Jリーグなどをはじめとする多くの地域スポーツクラブで採用されている



11-2. 鴨川市ハイブリッド型運営体制

平成32年度以降 = 公 : 民 = 3 : 7 目標 ⇒ 自走
プラットフォームとJV (ハイブリッド型運営)



12. スケジュール

平成30年度 スポーツカルチャーコミッションの創設に向けた準備作業

- ① 現状調査・分析
- ② ビジョン・ミッションの設定
- ③ 具体的な事業の計画
- ④ **モニタリング**（イベント、ツアー、キャンプ、スポーツ商品のモニター販売・実施 など）
- ⑤ **先進地視察**（オガール紫波を予定）：平成30年11～平成31年1月頃
- ⑥ **シンポジウム**の実施（地域理解の醸成）：平成30年12月頃
- ⑦ ①～⑥の取り組みを踏まえた地域振興計画の策定 ▶ **組織の設立（法人化）**

平成31年度 スポーツカルチャーコミッション創設・事業開始

- ① 組織設立・事業開始：平成31年3～4月
- ② キャンプ・イベント誘致事業の展開（2020年東京五輪を目標）
- ③ 指定管理に向けた準備
- ④ スポーツカルチャー創造事業のモニタリング

平成32年度 スポーツカルチャーコミッションの本格事業開始

- ① キャンプ・イベント運営（2020年東京五輪）
- ② 指定管理受託・業務開始 ▶ 一定の収益確保
- ③ スポーツカルチャー創造事業の実施
- ④ 自走に向け、自己収益性の向上

13. 大切にすること

① “メガ”ではなく“コツコツ”

○土日休日・繁忙期に開催する“メガイベント”

- ▶ 観光・サービス事業者が動けない。サービス低下のおそれもある。
- ▶ 経済的・人的コストの地域の持ち出しも多い。

② 平日・閑散期のスポーツ・カルチャーツーリズム商品開発

○スポーツ施設、観光・サービス業 = 平日や閑散期の集客がほしい

○平日・閑散期に“程良い”集客を実現する仕組み = 本市（地域）の課題

- ▶ 地域の持ち出し、人的負担が少ない。
- ▶ 地域も質の良いサービスが提供できる、適正数の来訪者・参加者の集客
- ▶ リピーター・ファン獲得の期待



平日・閑散期の“コツコツ”型の持続可能な仕組み

フェーズ 業務項目		2018年		8月	9月	10月	11月	12月	2019年		1月	2月	3月	4月～
1 基礎調査	(1) 資料収集整理				資料収集整理									
	(2) ヒアリング調査				ヒアリング									
	(3) 事例調査													
	ウェブ調査				ウェブ調査									
	実地調査（2箇所）							オガール ●（日程調整中）		2回目未定				
	(4) 認知度・来訪者意識調査				調査票の作成	調査の実施	回答の集計							
2 シンポジウム・対話	(5) 地域振興方策の検討・課題の洗い出し				委託状、事業概要説明、ミッションの共有、ビジョンの提示、今後のスケジュール、応		地域振興方策の検討							
	(6) 推進委員会・PTの運営													
	推進委員会				第1回 資料作成	意見内容のとりまとめ		資料作成 第2回 ● 12/15		意見内容のとりまとめ		資料作成 第3回 ●		
	プロジェクトチーム			業務着手時(8/28)	9/13 資料作成(9/7打ち合わせ)	定例	定例	定例		定例	定例	定例		業務終了時
	(7) シンポジウム・講演会等企画・運営													
	シンポジウム				企画	広報物の作成	広報	シンポジウム ● 12/15						
3 計画書	講演会（勉強会）				企画	勉強会	勉強会	勉強会						
	(8) 本市の現状と課題の整理						現状と課題の整理							
4 設立準備	(9) 計画書の作成等						作成のための協議				計画書の作成			
	(10) 合意形成・バブコメ										バブコメ資料作成			
	(11) 組織設立手続き					設立準備		定款作成等			設立手続き		申請・認可	組織設立
	(12) 広報物（ブランディング・パンフ）													
	パンフレット・マップ等							広報媒体の企画・ディレクション			パンフ等の製作・印刷			
	ウェブサイト										ウェブサイトの製作			
	その他					素材の収集・撮影								
	(13) 報告書												報告書作成 ● 3/22迄	

鴨川市でのスポーツに関するアンケート調査（団体向け）【案】

【趣旨】鴨川市では、「スポーツを通じた地域の稼ぐ力推進事業」として、市の保有する運動施設、スポーツに適した環境、宿泊施設や医療施設を地域資源として活用したスポーツを通じた鴨川市の魅力向上と新たな交流促進・産業創造に取り組んでいます。その一環として、鴨川市におけるスポーツに関する認知度や市への来訪意思に対するニーズ調査を実施いたします。

【目的】本調査によって鴨川市の認知度、スポーツに対する意識、スポーツ施設に対するニーズ等を把握し、事業計画の参考とすることを目的といたします。

【方法】鴨川市に来訪したことのある学校に対する郵送調査

【目標サンプル数】50

（問1）過去1年間で、鴨川市に訪れた回数を教えてください。

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回以上

（問2）過去に合宿などで利用した鴨川市内の運動施設を教えてください。

1. 総合運動施設 2. 体育センター 3. 宮運動広場
4. 大川面運動広場 5. 大川面庭球場 6. 大山庭球場
7. 芝浜プール 8. 小湊スポーツ館
9. その他

--

（問3）その際に合宿地を選んだ理由を教えてください

--

(問 4) 一度に複数の地域で合宿をしていますか？はいと答えた方はその理由も教えてください。

1. はい 2. いいえ

理由

--

(問 5) 鴨川市での合宿日程を教えてください

1. 5 日以内 2. 7 日以内 3. 7 日以上

(問 6) その際の合宿費用の総額を教えてください(交通費を含む)

1. 5 万円未満 2. 5 万円以上 15 万円未満 3. 15 万円以上 25 万円未満
4. 25 万円以上 35 万円未満 5. 35 万円以上 45 万円未満 6. 45 万円以上

(問 7) その際の合宿施設の満足度を教えてください。

1. 大変満足 2. 満足 3. 普通 4. 不満足 5. 大変不満足

(問 8) その際の合宿施設の良いところと課題点があれば教えてください

良いところ

--

課題だと思うところ

--

(問 9) 将来的に合宿地の変更等を検討していますか？はいと答えた方はその理由を教えてください

1. はい 2. いいえ

理由

--

(問 10) 合宿期間中に周辺地の観光をしたことはありますか？はいと答えた方はその場所を教えてください

1. はい 2. いいえ

場所

--

(問 11) 合宿終了後に周辺地および帰路地までの間で観光をしたことはありますか？はいと答えた方はその場所を教えてください

1. はい 2. いいえ

場所

--

(問 12)

鴨川市に来て合宿以外に期待することはありますか？はいと答えた方は期待することを教えてください

1. はい 2. いいえ

期待すること

--

(問 13) 合宿地で地域住民との交流の機会がありましたか？

1. はい 2. いいえ

(問 14) 合宿地の人々のホスピタリティ（もてなしの程度）を教えてください

1. とても良い 2. 良い 3. 普通 4. 悪い 5. とても悪い

(問 16) 合宿地での休日の過ごし方を教えてください

1. 完全休養 2. 地域散歩 3. 地域交流 4. 周辺地観光 5. 休日はない
6. その他

--

質問は以上です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

鴨川市でのスポーツに関するアンケート調査（一般向け）【案】

【趣旨】鴨川市では、「スポーツを通じた地域の稼ぐ力推進事業」として、市の保有する運動施設、スポーツに適した環境、宿泊施設や医療施設を地域資源として活用したスポーツを通じた鴨川市の魅力向上と新たな交流促進・産業創造に取り組んでいます。その一環として、鴨川市におけるスポーツに関する認知度や市への来訪意思に対するニーズ調査を実施いたします。

【目的】本調査によって鴨川市の認知度、スポーツに対する意識、スポーツ施設に対するニーズ等を把握し、事業計画の参考とすることを目的といたします。

【方法】インターネットを活用した調査

【目標サンプル数】200

【あなたについて教えてください】

（問1）性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性 3. その他

（問2）年齢を教えてください。

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代 7. 80代以上

（問3）現在の居住地を教えてください。

1. 北海道 2. 青森 3. 岩手 4. 宮城 5. 秋田 6. 山形 7. 福島 8. 茨城
9. 栃木 10. 群馬 11. 埼玉 12. 千葉 13. 東京 14. 神奈川 15. 新潟 16. 富山
17. 石川 18. 福井 19. 山梨 20. 長野 21. 岐阜 22. 静岡 23. 愛知 24. 三重
25. 滋賀 26. 京都 27. 大阪 28. 兵庫 29. 奈良 30. 和歌山 31. 鳥取 32. 島根
33. 岡山 34. 広島 35. 山口 36. 徳島 37. 香川 38. 愛媛 39. 高知 40. 福岡
41. 佐賀 42. 長崎 43. 熊本 44. 大分 45. 宮崎 46. 鹿児島 47. 沖縄

【鴨川市の来訪について教えてください】

（問4）鴨川市への来訪回数を教えてください。

1. 0回 2. 2～5回未満 3. 5～10回未満 4. 10回以上

（問5）鴨川市への主たる目的について教えてください。

1. 通勤、通学 2. 通勤以外で出張など仕事関係
3. 親族、友人等に会うため 4. 日常の買い物や食事
5. 運動や散歩など日常の趣味 6. 医療関係への外来など福祉関係
7. まつりなど観光イベントへの参加・見物 8. スポーツ大会への参加・見物
9. 公園、緑地への来訪 10. 食事や食べ歩き

11. その他

--

(問 6) 鴨川市の主たる訪問地・施設を教えてください。

--

【スポーツに対する意識を教えてください】

(問 7) 日頃行なっているスポーツを教えてください。

1. 陸上 2. マラソン 3. 水泳 4. 野球 5. ソフトボール
6. サッカー 7. バレーボール 8. バスケットボール 9. テニス
10. 卓球 11. バドミントン 12. ゴルフ 13. ボウリング
14. ウォーキング 15. ヨガ 16. ゲートボール
17. グラウンドゴルフ 18. スキー・スノーボード 19. サイクリング
20. ジョギング 21. 登山 22. ダンス
23. その他

--

(問 8) 鴨川市で行いたいスポーツを教えてください。

--

(問 9) 今後取り組みたいスポーツを教えてください。

--

【鴨川市のスポーツ施設に関して教えてください】

(問 10) 鴨川市のスポーツ施設を利用したことがありますか。

1. はい 2. いいえ

(問 11) はいと答えた方に質問です。

鴨川市内のスポーツ施設の利用頻度を教えてください。

1. 週 1 回以上 2. 月に 1～3 回 3. 半年に 3 回以下

(問 11) 鴨川市のスポーツ施設を合宿で利用したことがありますか。

1. はい 2. いいえ

(問 12) 鴨川市の以下のスポーツ施設で知っているものを全て丸で囲んでください。

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1. 総合運動施設 | 2. 体育センター | 3. 宮運動広場 |
| 4. 大川面運動広場 | 5. 大川面庭球場 | 6. 大山庭球場 |
| 7. 芝浜プール | 8. 小湊スポーツ館 | |
| 9. その他 | | |

--

【鴨川市のスポーツ施設に対するニーズについて教えてください】

(問 13) 鴨川市のスポーツ施設に対する意見がありましたら教えてください。

--

(問 14) 鴨川市に対する意見がありましたら教えてください。

アンケートは以上です。お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。